

病院だより

No.8
市立豊中病院ニュース
TOYONAKA MUNICIPAL HOSPITAL

基本理念

豊中市の地域中核病院として

『心温かな信頼される医療』を提供します。

基本方針

- 1) 患者さんの立場に立った心温かな病院をめざします。
- 2) 地域の中核病院として安全で質の高い医療を提供します。
- 3) 医療機関との連携を密にし、市民の健康を守るために努力します。
- 4) 高齢化社会に対応する医療を推進します。
- 5) 医療従事者の教育・研修の充実を図ります。

市立豊中病院では、平成19年11月17日(土)阪急豊中駅前「ゆやホール」において「第5回がん医療公開講座」を開催しました。この公開講座は、豊中市民をはじめ地域にお住まいの方を対象に、がん医療に関する最新の情報を提供し、がんに対する正しい知識を身につけていただくことを目的に、年に一度開催しています。

今年は「肝がん」をテーマとしてとりあげ、当院の医師が、内科・外科・放射線科それぞれの立場から、最新の予防・診断・治療について講演をおこないました。今回の「病院だより」は、当日の講演内容のうち、肝がんの診断や治療法についてお伝えします。予防法については、次号の「病院だより」で詳しくお伝えします。



第1部「肝がんの診断と治療」

市立豊中病院放射線科 保本 卓



■肝がんの診断方法

肝臓はお腹の右上、横隔膜の下にあり、肋骨に囲まれています。重さは、成人男性で1.2kg～1.6kgあり、人間の臓器のなかでは最も重たい臓器です。おもな働きとしては、代謝、解毒、胆汁の分泌などがあり、人体にとっても大切な臓器となっています。肝腫瘍とは、肝臓のなかでできる「できもの」で、良性のものや悪性のものがあります。良性腫瘍としては、水のたまりである肝嚢胞(かんのうほう)や血管腫といったものがあり、小さい場合には治療の必要はありません。悪性腫瘍、いわゆる肝がんには肝細胞がん、胆管細胞がん、転移性肝がんなどがあります。

肝がんを診断する方法としては大きく、肝機能や腫瘍マーカーなどを測定する血液検査と、エコー・CTスキャンなどの画像診断があります。画像診断のうち簡易的にできるものが超音波(エコー)検査です。検診でもおこなわれることの多い検査ですが、場所によっては見えにくいことがあります。血管腫やその他の良性腫瘍や、がんになる前の段階-前がん病変-などと鑑別が難しいこともあります。その点CT検査では、造影剤を体内に点滴入れながら撮影するため、かなりの確率で肝がん

発見できます。他に画像診断としてはMRIや血管造影がありますが、MRIはCTでわからない場合や造影剤が使えない患者さんにおこなわれることがあります。

■治療法や予後を左右する肝機能

肝機能は、肝臓全体がどの程度丈夫なのかを決める指標となるもので、同時に予後を左右するもっとも重要な因子となります。正確には肝予備能といいますが、この肝予備能はおもに血液検査で決定されます。

この肝予備能が良いか悪いか、つまり肝臓がどれだけ正常に機能しているかということを知ることで、どのような治療が可能かという治療の適応や、治療できる範囲、使用する薬の量を決定することになります。肝予備能が悪い場合(肝臓が正常に機能していない場合)は、例えば肝臓を切ったり、焼いたり、血管を詰めたりといった治療をおこなうことは危険となります。しかし、肝予備能が良い場合(正常に機能している場合)は、ある程度肝臓にダメージを与えるような治療をおこなっても残りの肝臓が機能しているため危険が少なく、いろいろな治療法を選択できるということになります。

左右され、肝機能が悪いほど成績は悪くなります。個数についても数が多くなるほど成績は悪くなります。

肝切除術後の肝内再発は、最初の治療から2年以内に「29.4%」の割合で再発が生じているとの調査結果があります。

術後の抗がん剤については、特殊な肝がんを除き、予防的に抗がん剤を投与することはありません。但し、転移性の肝がんについては、ほとんどの場合、予防的に抗がん剤を投与することをお奨めします。(大腸からの転移性がんの場合は、大腸がんに対する抗がん剤が投与されます。)再発防止に向けては、手術後も定

期的に検査を受け、再発の有無を調べる必要があります。

最後に肝がんに対する肝移植については、肝機能低下のため移植以外の治療法が出来ない状態で、がんが肝臓のみに存在し血管などに入っていない、60歳台までの患者さんが適応となります。また、腫瘍が3個以内で3cm以下、1個であれば5cm以下という基準以内であれば保険適応が可能です。生存率については、京都大学のデータで4年生存率が65%と良い成績が得られています。術後に免疫抑制剤の投与が必要で、肝臓の提供者(ドナー)も必要であることが問題となります。

がん相談支援センターのご案内

市立豊中病院では、市民へのがん医療に関する知識普及を目的に「市民公開講座」を開催するだけでなく、患者さんそれぞれの状況に応じた質問や相談に対応する「がん相談支援センター」を院内に設置しています。

センターには、がんについて詳しい看護師や生活全般の相談ができるソーシャルワーカーが常駐し、患者さんやご家族からの質問や相談に応じます。「がんのことやがんの治療について知りたい」、「今後の療養や生活のことが心配」など遠慮なくご相談ください。

また、ご相談いただいた内容が外部に漏れてしまうことは一切ありませんので、安心してお問い合わせください。

開設日時 月曜日～金曜日(土・日・祝日を除く) 9:00～16:00

相談内容 医療・看護・薬剤・医療福祉相談、食事療法、心理相談など

申し込み 面談にて相談を希望される方は、お電話にて事前にご予約をお願いします。

<費用>無料 <相談時間>30分程度

問い合わせ 市立豊中病院「がん相談支援センター」

TEL:06-6843-0101(代表)内線3461 FAX:06-6858-3551



ただし、「がん相談支援センター」は、現在かかられている担当医(主治医)に代わって治療について判断するところではありませんのでご了承ください。

〈お問い合わせ先〉

〒560-8565 豊中市柴原町4丁目14番1号 TEL(06)6843-0101 FAX(06)6858-3531
(ホームページ)http://www.chp.toyonaka.osaka.jp/

編集・発行:市立豊中病院広報委員会(病院管理課) 発行月:平成20年(2008年)1月